

打って投げて「二刀流」で大活躍！ 金メダル獲得おめでとうございます



オープニングラウンド最終戦(アメリカ戦)で豪かにスイングする藤田選手(写真:アフロ)



藤田 倭 選手



オープニングラウンド最終戦で先発し投球する藤田選手(写真:アフロ)

7月21日(水)から7日間開催された東京2020オリンピック・ソフトボール競技における決勝戦で、日本がアメリカに2対0で勝利し、13年ぶりとなる金メダルを獲得しました。

本市出身(崎辺中学校)の藤田 倭選手は、オープニングラウンドで3試合連続となる本塁打を放ち、イタリア戦やアメリカ戦では投手として先発出場するなど、投打の「二刀流」で活躍し勝利に大きく貢献しました。

7月27日(火)に行われた決勝戦では、5番指名選手(DP)として出場し、5回に追加点となる適時打を放ち、試合の流れを日本チームへ大きく呼び寄せました。

また、大会中、全試合に出場し、18打数7安打、打率.389で、3本塁打を打ち、8回投球、2失点の記録を残した藤田選手は、東京2020オリンピックベストナイン(東京2020組織委員会とWBSCが選定)で最優秀選手賞(MVP)の栄誉に輝きました。

オリンピックという大舞台で藤田選手が活躍する姿は、ソフトボールだけでなく、本市のスポーツ界全体に活力を与え、市民に大きな感動をもたらしました。

藤田選手をはじめ、選手や関係者の皆さん、おめでとうございました。そして、感動をありがとうございました。

スペインハンドボール男子 代表チームの事前キャンプ

7月17日(土)〜20日(火)、スペインハンドボール男子代表チームが市内でオリンピックの事前キャンプを行いました。

7月18日(日)には練習会場の東部スポーツ広場体育館に市内中学校・高校ハンドボール部の生徒など約200人が招待され、学生からの質問に選手たちが答える場面もありました。見学に参加した学生は「スペイン代表の皆さんは憧れの存在であり、世界トップレベルのプレーを間近で見ることができてうれしく思います。皆さんのプレーから多くのことを学び、今後のハンドボールに生かしていきたいです」と話しました。

スペインチームのオリンピックでの成績は、3位決定戦でエジプトに33-31で勝利し、見事銅メダルを獲得しました。



練習を行うスペインハンドボールチーム

柔道女子・深見利佐子選手 (タイ代表)が市長を表敬

7月30日(金)、本市出身で柔道女子52kg級にタイ代表として出場した深見利佐子選手が市長を表敬されました。深見さんは「佐世保の皆さんに応援していただき、とてもうれしく思いました。試合は初戦で負けてしまいましたが、オリンピックの舞台に立てたことを誇りに思います」とあいさつし、朝長市長は「世界で活躍できる力を本市で身に付けられ、オリンピック出場の夢を叶えられたことは私たちの誇りであり、とても喜ばしく思います。大変お疲れさまでしたとねぎらいました。」

今後は研究者としての道を目指す深見さん。近代化遺産などの研究のため佐世保を訪れることもあるそうです。



朝長市長など関係者と深見さん(中央)
※記念写真の際だけマスクを外しています。